

令和2年5月1日

大野市総合計画審議会（第4回） 書面表決結果

審議会委員25名中、委員長を除く24名から書面表決書の提出をいただきました。
委員の皆様からいただいた結果を以下のとおり報告いたします。

表決結果

賛成 24名 反対0名

委員からのご意見

- ・第2章の将来の見通しで、今後10年間で、中部縦貫自動車道県内全線開通や北陸新幹線県内延伸という高速交通体系が大きな転換期となる事は言うまでもないが、その具体的な施策を示し、それに基づき目標分野の展開を図る事が示してあるが、高速交通網で越美北線（九頭竜線）の利用方策の展開等を示してほしい。又中京方面からの人の流入対策等も想定し基本的に示してほしい。
- ・パブリックコメントにて指摘頂いている内容に関しても適宜修正されており非常に良いと思います。こういった行政の「指針」のようなものは抽象的な表現にならざるを得ず、難しいと存じますが大変お疲れ様でした。この基本構想を基に少しでもより良い「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」に近づければと思います。
- ・パブリックコメントの結果を読ませていただき、ご意見の多さから市民の第六次大野市総合計画への関心の高さを実感しました。少子高齢化・人口減少の中、大野市に期待すること、課題と考えていることは、ある程度まで全ての方が同じように考えておられると思います。コロナウィルスの流行という全く予想もしなかった事態により、今後の見通しがさらに混乱している状態ですが、変に気負ったり絶望したりせず、私たち1人1人ができることを実行していけたらと願っています。事務局の皆様も、大幅な予定変更など、大変な状況になっていると思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・基本構想はこれでよいと思います。今後策定される基本計画の中で、より実効性のある施策が検討されることを望みます。
- ・パブコメにあるように、これから基本構想を基本計画にどのように具体化していくことが重要と思います。特に住み続けたいまちであるためには、どうするとよいのか、具体的な目標を定めて市民と協働で実現していく必要があると思います。人口減少対策会議や学校再編会議とも連携が重要で、課題を共有する必要があります。特に若い人に大野に住み続けてもらうにはどうするとよいか。今後、基本計画の策定の中で、具体化について考えていきたいと思います。
- ・修正案に概ね賛成であるが、p5、基本の各分野の「健幸とは」の前半部分は社会全体の人々にとって必要な事を表しているので「全ての人々が」とした方が表現として適して

いる。又、後半の部分は大野市民に対してなので「誰もが」という表現で良いと思われる。

- ・ P 4の地域づくり分野の「みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち」では「みんなのつながりで」と記載した方が、より地域住民の主体性や積極性が感じられると思う。
- ・他にも色々な表現が発信されているが、これからの取り組みを検討してくのは大変だと思いました。
- ・文言の修正がいくつかあったようですが、P 4の「地域づくり」分野で、「みんなが」を「みんなで」に変更していますが、私はむしろ「みんながつながり地域が・・・」の方がよいような気がします。
- ・今回出された指針の中で、やはり人口減少問題が最も重要だと考えます。今、何が必要で、何が問題なのかを早急に分析し、改善していかなければ、「将来」が見えてきません。今現在の大野市では、こどもに対する取り組みは充実してきているように感じますが、その後はどうでしょうか。高校・大学・就職後についての取組みを強化し、生産年齢人口の減少を食い止めるために何をすべきか、皆で知恵を出し合い、この第六次大野市総合計画基本構想を基に協力していければと思います。
- ・これで良いと思います。パブコメが23件というのは少ないような気がして残念です。